

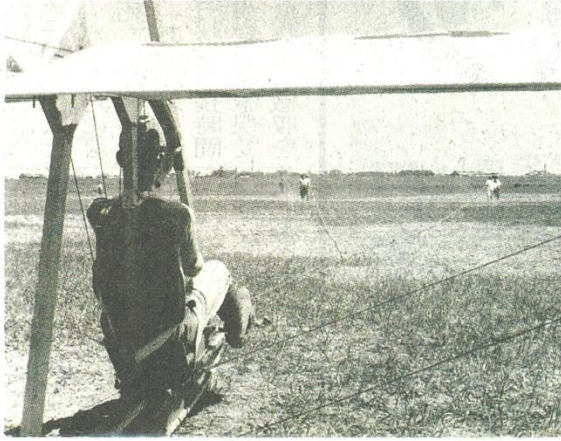
旧制中学生徒が滑空訓練

志木の荒川河川敷に飛行場

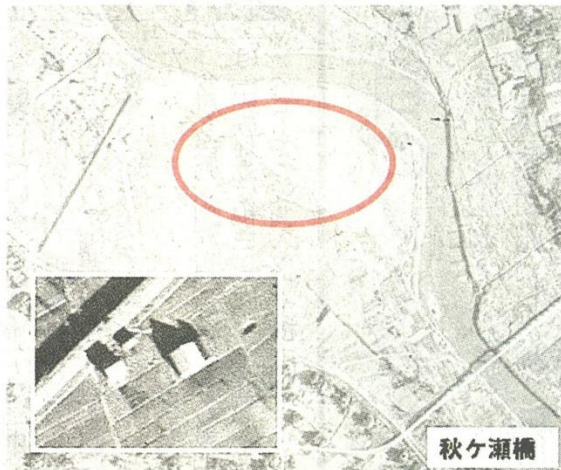
戦時中に志木市内の荒川右岸河川敷に飛行場があり、旧制中学生徒が滑空（グライダー）の訓練を行っていたことが卒業生への取材で分かった。旧制浦和中学（現浦和高校）や粕壁中学（現春日部高校）に残されていた回顧録や体験談から、飛行場の様子や滑空訓練の実態が浮かび上がってきた。

■米軍資料で確認
の志木市宗岡、県道秋ヶ瀬橋 年に同地に「埼玉第一飛行場」の設置を許可した。官報には、総面積15万6414平方メートル、滑走区域は東西最大400メートル、南北最大約800メートルと記されている。

話題 スポット



①秋ヶ瀬の飛行場で行われた滑空訓練の様子（県立浦和高校同窓会提供）②1944年秋ヶ瀬橋周辺の荒川の写真。左下は42年に撮影されたより鮮明なもの。いずれも建物の影が確認できる。○の地域で滑空訓練が行われたとされる（国土地理院所蔵の航空写真を加工し説明を加えた）



秋ヶ瀬橋

連合国軍総司令部（GHQ）

資料で、米軍は日本国内の飛行場や緊急離着陸場の一つとして同飛行場を「Urawa」と記録。米軍が撮影した当時の航空写真でも、複数の建造物を確認することができる。

訓練を行っていた旧制中学の卒業生によると、この飛行場は「浦和飛行場」や「秋ヶ瀬飛行場」などと呼ばれた。舗装された滑走路はなかったという。

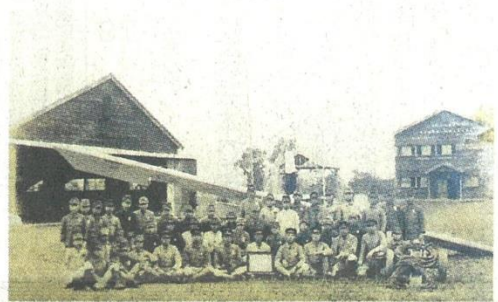
■県内14校に滑空班

戦時中、旧文部省（現文部科学省）は国防政策の一環として、全国の旧制中学に滑空訓練を導入した。当時の資料や卒業生の話からは、国が少年飛行兵養成の前段階として滑空訓練を課していたことがうかがえる。

1939〜42年の「航空年鑑」によると、県内では浦和、粕壁、川越、熊谷各旧制中学など14の学校で「滑空班」や「滑空部」がつけられた。滑空の練習では、1人が機体に取り込んで操縦。複数

戦時中、国の主導で

1944年に秋ヶ瀬の飛行場で撮影された粕壁中学滑空班の集写真（長島さん提供）



ら滑空部は40年に明治神宮で開かれた全国大会で優勝を果たした。

小池さんは「当時はグライダーが盛んだった。週末は浦和市常盤町（現さいたま市）の家から歩いて秋ヶ瀬の飛行場まで通った」と記憶をたどる。

旧制粕壁中学に12歳で入学した加須市旗井の長島恒雄さん（86）は「空を飛ぶことに憧れて」滑空班に入った。練習は千葉県野田市で行ったが、秋ヶ瀬の飛行場でも合宿を行った。

の生徒がゴム索を引き、パチンコの原理で機体を弾き飛ばした。機体は文部省が備えたもので、骨組みがむき出しの簡易なものだった。

44年9月に撮影された長島さんが所有する集合写真。「秋ヶ瀬には宿泊所とグライダーを保管する格納庫があった」と、長島さんは背景に写る建造物を説明した。

一定の訓練をすると高さ3〜5メートル程度まで飛べるようになったという。卒業生は操縦機体が浮上する瞬間について「空を飛ぶ感動があった」と口をそろえる。

しかし、戦況が悪化すると、滑空班の活動はなくなった。終戦を迎え、軍事や航空、戦意高揚にまつわる事柄は全てタブーになったという。

■全国大会で優勝も
当時、旧制浦和中学滑空部の部長だった小池栄一郎さん（93）によると、平日は校庭、週末は秋ヶ瀬の飛行場で滑空の練習に励んだという。年に1度真大会が行われ、小池さん

「そのまま（戦闘機の）パイロットになる可能性もあったのでは」と問うと、「続けるの部員だった小池栄一郎さん（93）によると、平日は校庭、週末は秋ヶ瀬の飛行場で滑空の練習に励んだという。年に1度真大会が行われ、小池さん